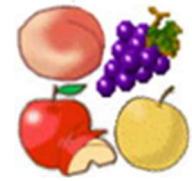




令和6年度 果樹情報 第10号

(令和6年8月7日)



福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況 (7月後半、果樹研究所)

平均気温は、第4半旬が25.7℃で平年より2.1℃高く、第5半旬が27.2℃で平年より2.8℃高く、第6半旬が27.6℃で平年より2.2℃高く経過しました。

この期間の降水量は19.5mmで平年比31%と平年より少なくなりました。日照時間は72.1時間で平年比74%と平年より少なくなりました。

2 土壌水分 (7月31日現在、果樹研究所)

7月31日時点の土壌水分(pF値:果樹研究所なしほ場:草生・無かん水)は、深さ20cmから深さ60cmまで全て2.9となっており、乾燥状態です(図1)。

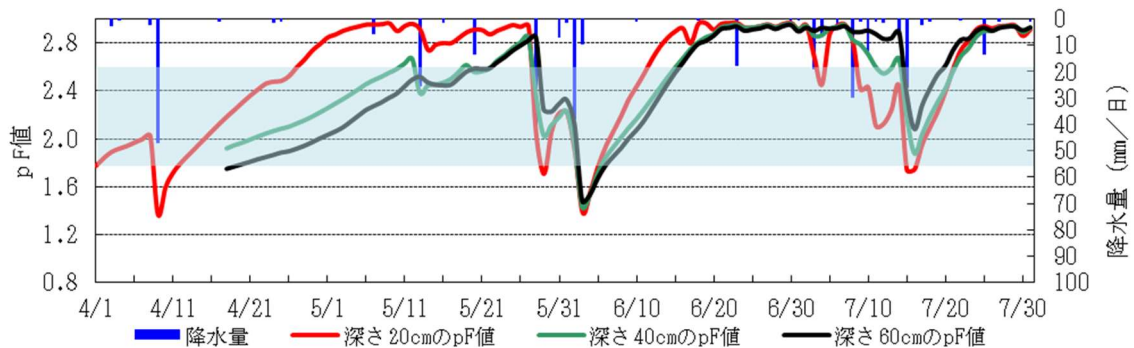


図1 土壌 pF 値の推移(果樹研究所なしほ場:草生・無かん水)
図中の網掛け部は、適湿の範囲(pF1.8-2.6)

3 発育状況 (8月1日現在、果樹研究所)

(1) もも

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「ゆうぞら」は縦径が73.2mm(平年比117%)、側径が74.6mm(平年比132%)と平年より大きい状況です。

満開後日数で比較すると、平年より大きくなっています。

イ 新梢生長

満開後100日における「ゆうぞら」の新梢長は17.9cm(平年比113%)と長く、展葉数は17.1枚(平年比112%)と多く、葉色は平年並となっています(表1)。新梢停止率は92.5%でした。

ウ 収穫状況

「ふくあかり」の収穫盛期は7月15日で平年より12日早く、昨年より3日早くなりました。

果実の大きさは306gで平年よりかなり大きく、糖度は12.8° Brixで平年並でした(表2)。

「あかつき」の収穫盛期は7月22日で平年より13日早く、昨年より3日早くなりました。

果実の大きさは343gで平年よりかなり大きく、糖度は13.2° Brixで平年並でした。

表1 ももの新梢伸長(満開後100日)

品種	新梢長(cm)			展葉数			葉色(SPAD)			新梢停止率(%)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
ゆうぞら	17.9	15.8	113	17.1	15.3	112	46.8	45.7	102	92.5	92.8	100

注) 平年は、1996~2020年の平均値

表2 ももの収穫状況

品種	収穫開始日			収穫盛期			収穫終期			果実重(g)			糖度(° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
はつひめ	6/28	7/ 6	6/29	7/ 2	7/ 9	7/ 3	7/ 4	7/13	7/ 6	303	264	291	12.7	11.8	11.3
日川白鳳	7/ 1	7/13	6/30	7/ 3	7/16	7/ 2	7/ 4	7/20	7/ 4	211	236	231	12.8	11.0	11.2
暁星	7/ 8	7/21	7/10	7/10	7/25	7/12	7/11	7/29	7/14	211	221	234	14.0	13.0	13.6
ふくあかり	7/12	7/21	7/13	7/15	7/27	7/18	7/16	7/31	7/21	306	266	262	12.8	13.0	13.1
あかつき	7/19	7/31	7/21	7/22	8/ 4	7/25	7/29	8/ 9	7/31	343	269	328	13.2	13.0	12.8

注) 平年値は、1991～2020年(「はつひめ」「ふくあかり」は2009年～2020年)の平均

(2) なし

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「幸水」は縦径が64.0mm(平年比113%)、横径が80.7mm(平年比116%)と平年より大きく、「豊水」は縦径が69.7mm(平年比124%)、横径が80.5mm(平年比128%)と平年よりかなり大きい状況です。

満開後日数で比較すると、「幸水」は平年並、「豊水」は平年より大きくなっています。

イ 新梢生長

満開後100日における「幸水」の予備枝新梢長は103.2cm(平年比91%)とやや短く、不定芽新梢長は100.3cm(平年比101%)と平年並となっています。予備枝新梢の葉枚数は27.9枚(平年比91%)とやや少ない状況です(表3)。予備枝新梢停止率及び不定芽新梢伸長停止率は、ともに100%でした。

満開後100日における「豊水」の予備枝新梢長は104.9cm(平年比96%)と平年並、不定芽新梢長は79.5cm(平年比86%)と短くなっています。予備枝新梢の葉枚数は30.0枚(平年比102%)と平年並となっています。予備枝新梢停止率及び不定芽新梢伸長停止率は、ともに100%でした。

表3 なしの満開後100日における新梢生長

品種	予備枝新梢長(cm)			不定芽新梢長(cm)			予備枝葉数(枚)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
幸水	103.2	112.8	91	100.3	99.3	101	27.9	30.7	91
豊水	104.9	109.4	96	79.5	92.6	86	30.0	29.4	102

品種	予備枝新梢停止率(%)			不定芽新梢伸長停止率(%)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
幸水	100	-	-	100	-	-
豊水	100	-	-	100	-	-

注) 平年値: 「幸水」の新梢長は1990～2020年、葉枚数は1998～2020年、「豊水」の新梢長は1991～2020年、葉枚数は1998～2020年の平均値

ウ 裂果発生状況

「幸水」の裂果発生率は0.7%(平年2.7%(2001～2020年の平均値))で平年より低くなりました。

エ 成熟状況

満開後105日における「幸水」の成熟状況は、果実硬度が7.8ポンド、糖度が11.4° Brix、果皮中クロロフィル含量が11.4 μ g/cm²となっています(図2、3、4、表4)。

満開後日数での比較では、糖度がやや高く、果実硬度及び果皮中クロロフィルがやや低い状況です。果皮中クロロフィル含量に対する果実硬度は、平年値をやや上回っています(図5)。

オ 生育予測

8月1日現在のDVRモデルによる「幸水」の生育予測では、収穫盛期は8月20日ごろで平年より9日早い見込みです。

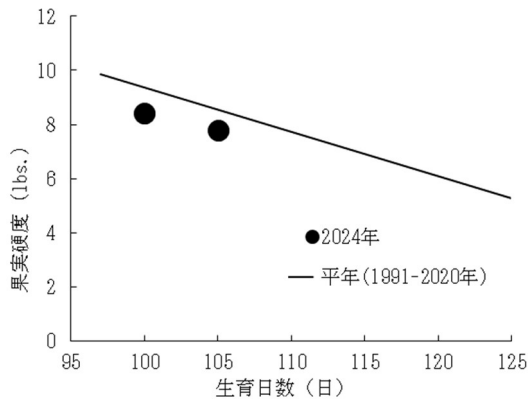


図2 「幸水」の果実硬度の推移

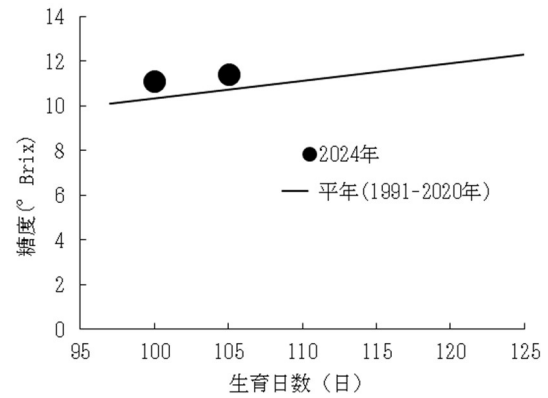


図3 「幸水」の糖度の推移

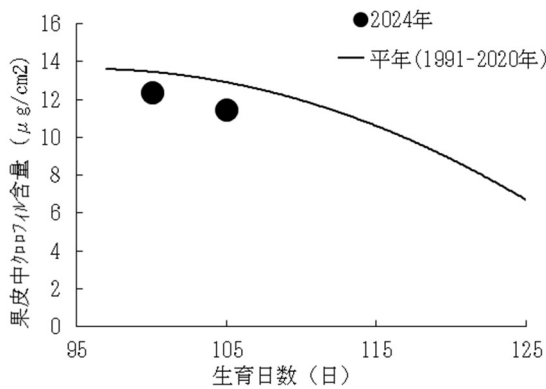


図4 「幸水」の果皮中クロロフィル含量の推移

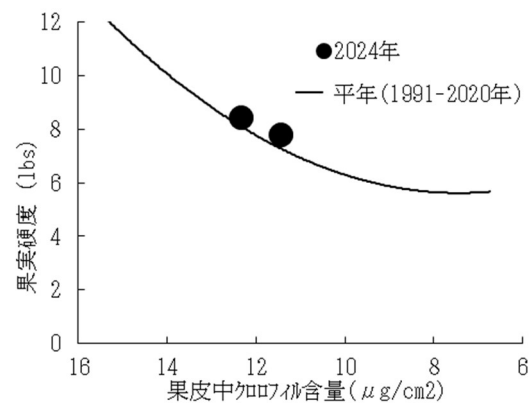


図5 「幸水」の果皮中クロロフィル含量と硬度の推移

表4 なし「幸水」の成熟経過

生育日数	硬度 (lbs.)			地色			糖度 (° Brix)			果皮中クロロフィル含量		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
105	7.8	8.4	10.2	1.2	1.7	1.5	11.4	10.7	10.4	11.4	12.9	12.5

注) 平年値は、1991～2020年の平均値

(3) りんご

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は縦径が 71.4 mm (平年比 105%)、横径が 81.1 mm (平年比 104%) と平年並、「ふじ」は縦径が 64.9 mm (平年比 107%)、横径が 71.6 mm (平年比 107%) と平年よりやや大きい状況です。

満開後日数で比較すると、両品種とも平年並となっています。

イ 成熟状況

満開後 98 日 (7 月 30 日) における「つがる」の成熟状況は、硬度が 16.1 ポンド、デンプン指数は 1.0、糖度は 10.6° Brix、リンゴ酸は 0.39g/100ml となっています (図 6、7)。

満開後日数での比較では、果皮中アントシアニン含量が平年より低く、果皮中クロロフィル含量はほぼ平年並に推移しています (図 8、9)。

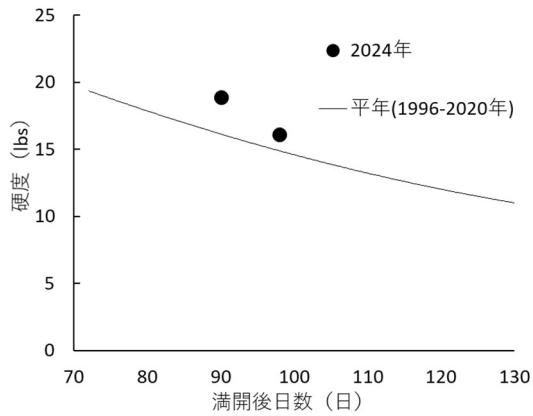


図6 「つがる」の果実硬度の推移

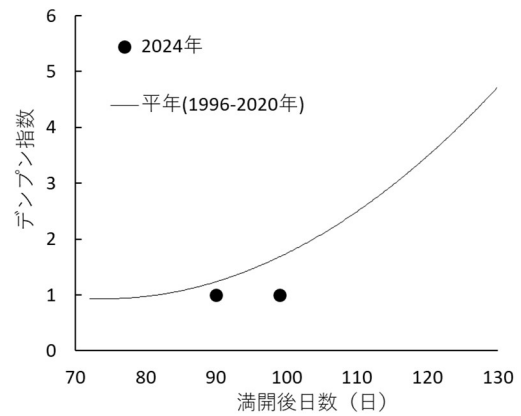


図7 「つがる」のデンプン指数の推移

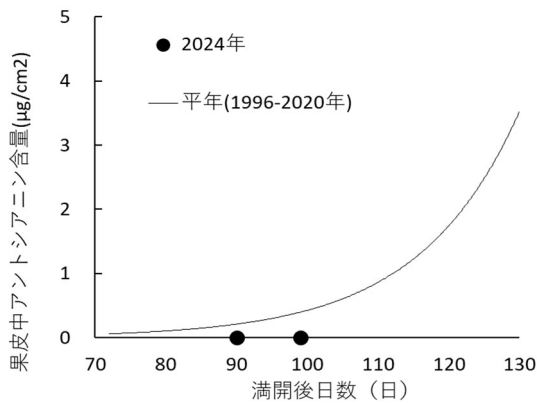


図8 「つがる」の果皮中アントシアニン含量の推移

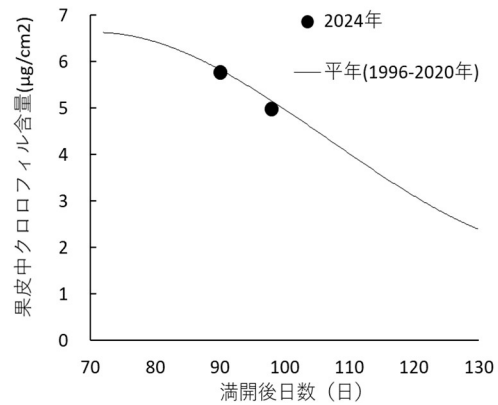


図9 「つがる」の果皮中クロロフィル含量の推移

(4) ぶどう

ア 収穫状況

「あづましずく」の収穫開始日は、長梢栽培が7月31日で平年より11日早く、昨年より8日早く、短梢栽培が7月31日で平年より15日早く、昨年より8日早くなりました(表5)。

表5 「あづましずく」の収穫日

栽培方法	収穫開始日			収穫盛期			収穫終期		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
長梢栽培	7/31	8/11	8/ 8	未	8/15	8/10	未	8/18	8/10
短梢栽培	7/31	8/15	8/ 8	未	8/18	8/10	未	8/21	8/10

注) 平年は2004年～2020年の平均値

イ 成熟状況

満開後70日(7月31日)における「巨峰」の成熟状況は、果皮色が7.2、糖度が16.2° Brix、酒石酸含量が1.00g/100ml、糖酸比が16.2となっています(図10～13)。

暦日で比較すると、糖度が高く、酒石酸含量は低い傾向です。

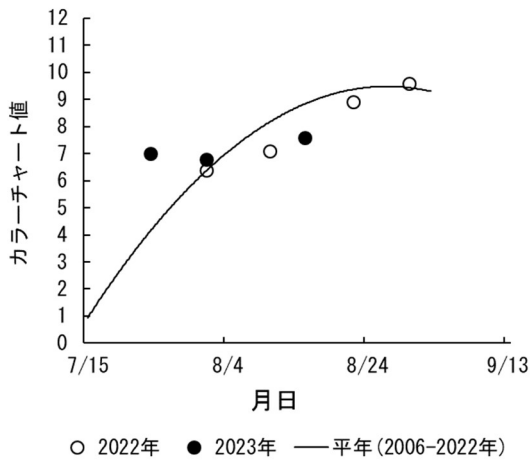


図 10 「巨峰」の果皮色の推移

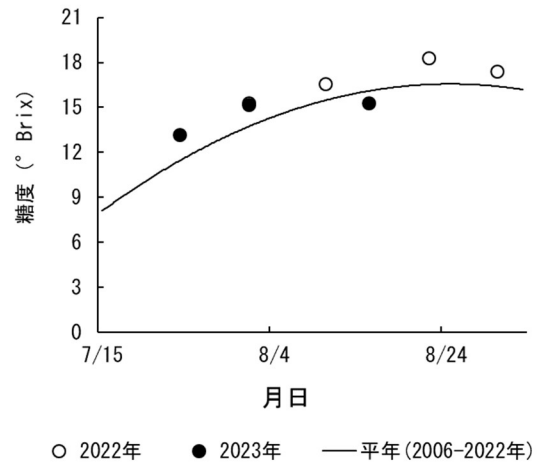


図 11 「巨峰」の糖度の推移

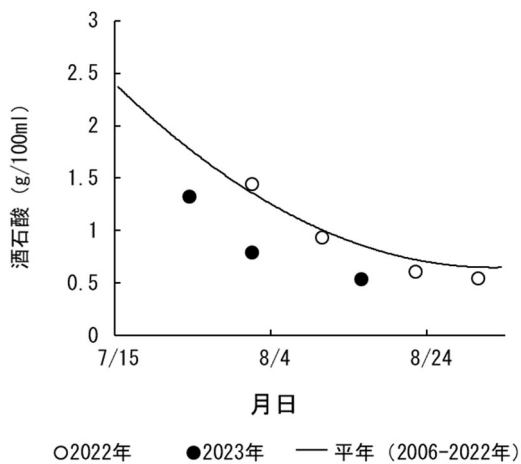


図 12 「巨峰」の酒石酸含量の推移

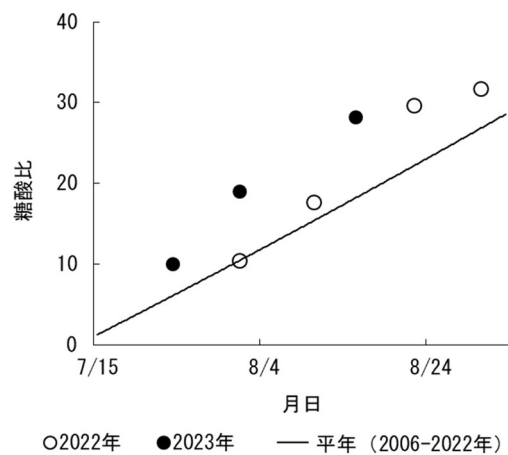


図 13 「巨峰」の糖酸比の推移

4 栽培上の留意点

仙台管区气象台によると、東北南部は8月1日ごろに梅雨明けしたとみられます。本年の梅雨期の降水量（6月23日から7月31日）は、会津地域では平年並、中通りは平年並からやや少ない、浜通りではやや少ないから少ない状況にあります。果樹研究所の土壤水分は乾燥状態にあることから、各園地の状態に応じて適切な対策を実施しましょう。

また、8月1日に発表された1か月予報では、今後の平均気温は高い確率 70%と予想されており、特に期間の前半はかなり高くなると見込まれています。

高温・乾燥状態が続く場合には、速やかにかん水を実施しましょう。

(1) 共通

ア 乾燥傾向の園地

5月から夏期にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度のため、1回のかん水は25～30mm程度（10a当たり25～30t）を目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くしましょう。

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行きましょう（地表面からの蒸発散量は、草生園において刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされます）。

また、刈り草や稲わらのマルチを行い、土壤水分の保持に努めましょう。

イ 過湿傾向の園地

土壌の過湿は葉の褐変や黄変落葉を引き起こす原因となるので、停滞水が発生しやすい園地では排水対策を徹底しましょう。また、落葉した場合は、葉枚数や葉面積に応じた着果量の見直しを行いましょう。

ウ 高温期間中の収穫作業

果実温が高いと日持ち性が低下しますので、収穫は果実温が低い朝のうちに行いましょう。また、収穫後は直射光の当たらない涼しい場所に保管し、速やかに出荷調整を行いましょう。

(2) もも

ア 晩生品種の収穫前管理

今後、「川中島白桃」、「ゆうぞら」等については果実肥大が盛んな時期に入るので、適期に修正摘果を実施するとともに、夏季せん定や支柱立て、枝吊り、反射シートの設置など収穫前の管理を計画的に実施しましょう。また、強風や多雨による枝折れに注意しましょう。有袋栽培では、適期に除袋するとともに、着色管理作業も計画的に行いましょう。

(3) なし

ア 「豊水」の修正摘果

「豊水」は満開後 120 日ごろ（果樹研究所では 8 月 13 日）を目安に修正摘果を実施しましょう。着果過多は休眠期の紫変色枝枯症の発生を助長するので、適正着果に努め、「幸水」並の着果量（10a 当たり 10,000 果）としましょう。

(4) りんご

ア 早生種の収穫前管理

気温の高い日が続いていることから、日焼け果の発生が確認されています。葉摘みは、日焼け果の発生状態を確認しながら数回に分けて行いましょう。

イ 落果防止剤散布

「つがる」の落果防止剤としてストップボール液剤を用いる場合には、収穫開始予定日などの農薬使用基準に十分注意して散布しましょう。

ウ 修正摘果

中・晩生品種は、果実の大きさ、果形、サビ、日焼けの有無等をよく見て修正摘果を行いましょう。

(5) ぶどう

ア 収穫適期の把握

収穫時期は品種、地域、樹勢、房型や着房量によって異なりますので、果皮色や食味（特に糖酸比）、香り等について総合的に判断し、適期収穫を心がけましょう。

イ 収穫方法

収穫はなるべく果実温度の低い早朝に行いましょう。また、収穫や調整の際に果房を直接手で持つと果粉が落ちて商品性が低下するため、収穫時及び収穫後の調整を行う際には穂軸を持って扱うように心がけましょう。さらに、脱粒を防ぐために収穫後の果房の取り扱いは丁寧に行い、コンテナ内に果房を重ねたり運搬の際に揺れてこすれたりしないように注意しましょう。

ウ 新梢管理

長梢栽培において、一定の葉数が確保された 8 月以降の摘心は、果実品質の向上と新梢の充実が期待できます。8 月上旬に伸長が続いている強い新梢は、20～25 葉程度を目安に摘心しましょう。摘心後も棚下が暗い場合は、徒長的な新梢を中心に間引きを行います。本数は必要最小限にとどめるように注意しましょう。

また、副梢の摘心も同時に行い、摘心後に再発生する副梢は 2～3 葉残して摘心しましょう。

5 病害虫防除上の留意点

高温が続いています。薬害発生を防止するため、薬剤散布は、高温時を避けて早朝または夕方に実施しましょう。また、急な雷雨に備えて気象情報に留意し、防除タイミングを逃さないようにしましょう。

(1) 病害

ア リンゴ褐斑病、炭疽病

病害虫防除所による7月中下旬の発生調査では、本病の発生ほ場割合は、中通りで平年よりやや高い状況でした（令和6年7月30日付け病害虫防除情報）。本病は梅雨期以降も二次感染を繰り返し被害が拡大するため、本病の発生が多い場合は防除間隔が空かないよう降雨前の防除を徹底し、感染拡大を防止しましょう。

炭疽病は、発病が増加する時期であるため注意が必要です。本病が発生しやすい黄色系品種や紅玉などでは、薬剤防除のみでは防除効果が不十分であるため、伝染源となる罹病果実の除去を徹底しましょう。

薬剤防除は、両病害ともに8月上旬中頃にQoI剤（ストロビドドライフロアブルを3,000倍またはフリントフロアブル25を3,000倍）を使用します。ただし、QoI剤は薬剤耐性菌が発生しやすいため連用を避け、使用回数には十分注意しましょう。

薬剤散布前には徒長枝の整理等の新梢管理を行い、薬剤の散布むらをなくしましょう。

イ モモ灰星病

降雨により灰星病の感染が助長されるため、収穫まで本病の防除を徹底しましょう。薬剤は灰星病防除剤（県病害虫防除指針参照）のいずれかを選択し、使用濃度、収穫前日数、使用回数等の農薬使用基準を十分に確認し、除袋後に間隔が空きすぎないように注意して使用しましょう。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

第4世代成虫の誘殺盛期は8月1半旬ごろと予測され、第5世代幼虫の防除適期は8月2半旬ごろと推定されます（表6）。また、第5世代成虫の誘殺盛期は8月5半旬ごろと予測され、第6世代幼虫の防除適期は8月5～6半旬と推定されます。

本種の発生は、放任園や無防除のハナモモ等が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣にある園地では、今後も発生に注意しましょう。

イ ナシヒメシンクイ

病害虫防除所による7月中下旬の発生調査では、本種によるモモ新梢の芯折れ被害発生ほ場割合が6割程度と平年より高く、例年この時期に確認されていない「中」発生のは場が多数確認されているため、特に注意しましょう（令和6年7月30日付け令和6年度病害虫防除情報）。

また、果樹研究所内において、もも、なしの果実被害が確認されています。

第3世代成虫の誘殺盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合、8月2半旬ごろと予測され、第4世代幼虫の防除適期は、8月3半旬ごろと推定されます（表6）。

本種は、もも等の核果類の新梢伸長が停止すると、なし果実への寄生が増加します。例年、なしの果実被害が多い地域では、近隣のもも等における防除も徹底しましょう。

ウ カイガラムシ類

例年、ウメシロカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は8月上旬から中旬ごろ、クワコナカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は8月下旬から9月上旬ごろとなっています。カメムシ類対策等で合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド剤等を多く使用している園地では、天敵類の減少によるカイガラムシ類の増加に注意し、発生状況に応じて防除を行いましょう。

エ ハダニ類

高温期は増殖が速いので、ハダニ類の発生状況をよく確認し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）の密度になったら速やかに防除を行いましょう。

オ カメモシ類

飛来状況をよく観察し、多数の飛来がみられる場合には速やかに防除を行いましょう。

本年は、防除所のフェロモントラップ調査で全ての調査地点で例年より多く誘殺されています。もも、なし、りんごともに果実被害が確認されているため、飛来状況に注意しましょう（令和6年7月30日付け令和6年度病害虫発生予察情報 注意報 第3号）。**防除にあたっては、果樹情報特別号「果樹カメモシ類の防除対策」（8月1日発行）を参考にして、地域一体となって取り組みましょう。**

表6 果樹研究所における防除時期の推定（令和6年7月31日現在）

今後の 気温予測	モモハモグリガ				ナシヒメシンクイ	
	第4世代 誘殺盛期	第5世代 防除適期	第5世代 誘殺盛期	第6世代 防除適期	第3世代 誘殺盛期	第4世代 防除適期
2℃高い	8月2日	8月6日	8月21日	8月24日	8月6日	8月12日
平年並	8月2日	8月6日	8月21日	8月25日	8月7日	8月13日
2℃低い	8月2日	8月6日	8月24日	8月28日	8月8日	8月15日

起算日：モモハモグリガ 第3世代誘殺盛期 7月13日（予測値）
 ナシヒメシンクイ 第2世代誘殺盛期 7月13日（予測値）
 （演算方法は三角法）

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

福島県農薬危害防止運動を実施中

■農薬使用基準の遵守 ■農薬飛散防止対策の徹底 ■住宅地等における農薬適正使用の推進

実施期間：6月10日から9月10日まで。農薬による事故等の未然防止に努めましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344

（以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。）

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>